

Development of Content and Language Integrated Learning Class in Japanese Language Education Based on Instructional Design for Chinese Higher Education

郝, 皓

<https://hdl.handle.net/2324/7362165>

出版情報 : Kyushu University, 2024, 博士 (教育学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :



氏 名 : 郝 皓

論 文 名 : Development of Content and Language Integrated Learning Class in Japanese Language Education Based on Instructional Design for Chinese Higher Education (中国高等教育向けのインストラクショナルデザインに基づく日本語教育における内容言語統合型授業法の開発)

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

この論文は、中国の高等教育における日本語教育に対し、内容言語統合型学習 (Content and Language Integrated Learning: CLIL) の導入とインストラクショナルデザイン (Instructional Design: ID) を基盤とした教育手法の開発を試みている。従来の中国の高等教育における日本語教育は、文法や翻訳に偏重し、実際の言語運用能力の向上が課題とされている。本研究は、CLIL の 4Cs (Content, Communication, Cognition, and Culture) を指針とし、現実的な問題解決を重視するメルルの第一原則 (First Principles of Instruction: FPI) を取り入れることで、学生の総合的な日本語力と異文化理解能力を高めることを目指した。本論文では、まず、CLIL に関する先行研究を FPI の視点から整理し、続いて ID を活用した 3 つの実践研究を実施した。第 1 の実践では、日本語の基礎学習に FPI を導入し、その効果を検証した。第 2 の実践では、CLIL 授業に FPI を組み込み、学生の専門知識の理解や言語運用能力の向上を検証した。第 3 の実践では、ICT を活用した CLIL 授業を FPI 理論に基づく設計し、オンライン学習ツールである Moodle を通じて、学生の学習成果を分析した。三つの実践を通し、FPI 理論の各要素と学生の学習成果の相関性が明らかになり、最終的には CLIL 授業設計のためのチェックリストを提案した。本論文は、日本語教育における CLIL と ID の融合の可能性を示し、今後の教育実践における効果的な授業デザインの方向性を提示している。

各章の要約は以下の通りである。

第 1 章

研究の背景と目的: 本章では、中国における日本語教育の需要の高まりと、伝統的な教授法における課題を明らかにする。言語学習と内容学習の統合を強調し、効果的なアプローチとして CLIL を紹介する。

第 2 章

文献レビュー: 本章では、ID の観点から、FPI に焦点を当て、CLIL に関する研究をレビューする。CLIL の意義や、言語学習のための ICT のツールとの統合について考察している。

第 3 章

実践研究 1 (日本語授業): 本章では、ID を用いてデザインされた日本語授業の効果に関する実践研究を紹介する。授業デザイン、参加者、データ収集、結果、学習成果についての考察が述べられている。

第 4 章

実践研究 2 (日本語 CLIL 授業): 2 つ目の実践研究では、ID を用いた CLIL 授業の効果を探る。この章では、FPI を統合することの効果、達成された成果、FPI の要素が学生の学習とどのように相関するかについて論じている。

第 5 章

実践研究 3(日本語 CLIL 授業と ICT の統合): この章では CLIL の授業デザインにおける ICT の統合について論じている。FPI の要素と Moodle を組み合わせることで、学生の学習経験や成果にどのような影響を与えるかを検討した結果について論じている。

第 6 章

ID に基づいた CLIL 授業のデザイン: この章では、3 つの実践的研究の学習効果を比較し、専門家によって検証された FPI 要素を使用して、効果的な CLIL をデザインするための包括的なチェックリストを提案した。

第 7 章

最終章では、FPI に基づいた CLIL の 4Cs の統合、CLIL 授業をデザインするためのチェックリスト、研究の限界、そして今後の研究の方向性についてまとめている。

本研究では、学生の総合的な日本語力と異文化理解能力を高めることを目的に、3 つの実践を通じて、CLIL を、FPI を利用し、インストラクショナルデザインを行うためのチェックリストを開発し、妥当性評価も行なった。その成果によって、これまで学習成果に有効性が認められる CLIL のデザインは教師の経験値に依存していることや、研究としても、「どういう要素をいれるべきか」を示した粗いフレームワークの提案はあったものの、モデル化という方向性は教育工学の研究では見られなかった。本研究はインストラクショナルデザインモデルである FPI から CLIL のデザインを検討し、実践展開できるチェックリストの提案を行い、CLIL の実践展開だけではなく、教育工学における CLIL の研究としても発展をもたらした。学習対象となる外国語を用いて専門内容を学ぶという CLIL は本研究がフィールドとなった中国だけではなく、日本、世界的に大きな課題の 1 つであるが、その課題に対しても実践的な意義の高い、新たな可能性を開くものと期待される。